



## 生かされない教訓 繰り返される被害

### 能登半島地震 被害の拡大

地震国日本はいつでもどこかで地震が発生する確率が高い。能登半島では07年にも震度6強の地震が観測され、22年3月頃から頻繁に発生していた。専門家は能登半島沿いにある断層が連動して活動した場合はM7・6の地震が発生する可能性を示していた。まさにその指摘に合致する規模の地震であった。石川県は従来指摘されていたM7程度程度の地震に対応すべき対策をすすめており、想定被害は「死者7名、全壊120棟、避難者2781人、ごく局地的な災害で、災害程度は低い」と見込んでいた。今回の地震被害は3月1日現在の記録では死者241名（災害関連死15名含む）、全壊家屋7737棟、建物被害は全部で77703棟に達している。想定被害を大幅に超えている。ライフラインは水道を中心に電気、ガス、道路、鉄道、港湾、通信等に被害が多く、復旧は遅れている。劣悪な避難所生活は長引き、災害関連死も増えている。

る。災害の備えは常にアップデートが必要な事を示している。

### 救援活動の遅れ

地震発生直後の救援活動の遅れも指摘されている。自衛隊の支援が2日に始ったが、規模は小さかった。陸の孤島となった所も多く道路が寸断され、港湾も被害が大きく、空からの救援を大幅に活用していれば、よりスムーズに救援できただろうに。自衛隊は1月7日には予定されたヘリの訓練を優先させ、計画通り行った。臨機応変に訓練優先ではなく、被災地救援に振り向けるべきでは無かったのか。

### 志賀原発 稼動していたら

能登半島中程に位置する志賀原発が稼動していたらと思うと恐ろしい。志賀原発には活断層が無いと北陸電力は説明しているが、原発内に断層があり、活断層か否かが問わ

れている。規則では活断層上には原発は作れない。今回の地震で外部電源の一部を失い壊れた変圧器から膨大な量の油が漏れ出し一部が海に流出。避難の際基準となる空間放射線量を測るモニタリングポストが18箇所も測定出来なくなつた。避難の必要性が出たら周辺の道路も寸断されており大混乱になったでしょう。3mの津波も観測されている。志賀原発は1、2号機があり東日本大震災後稼動を止めた。現在2号機の再稼動に向けて審査中。今回の地震は原発内で震度5強を記録したが、規制委員会として想定外の変圧器故障が起きた。当初3600と発表した漏洩油は後日19800と訂正する等混乱した。震度6や7に見舞われたら何が起るのか。変圧器が壊れたら原発稼動に支障を来す。きつぱり廃炉とすべきでしょう。



輪島朝市地域の被害

# 形式だけの政治倫理審査会

## 裏金疑惑真相隠し

自民党の多くの派閥が政治資金集めの道具として資金集めパーティを行っている。この収入に対し支出の流れが隠され裏金として各議員にキックバックや中抜きしていた。

パーティ資金の流れを解明し、その資金がどのようにに使われているかわれている。派閥側や資金を受けた各議員の説明がなされない中、政治倫理審査会は非公開、議事録も取らない開催に自民党は固執し、開かれない可能性も出ていた。予算案が年度内に自然成立するリミットが迫り、呼ばれてもいないのに岸田首相は全面公開で出席するという奇策に出た。そのため渋々安倍派、二階派議員の出席が決まり開催された。しかしそれまで判明していた事の繰り返しで真相は闇の中。形だけ審査会を開き予算案を

衆院で強行採決した。

## 証人喚問が必須

政治倫理審査会は罰則もなく真実を語らなくても形だけ参加すればと思っただけ参加するだろう。参議院でも開催が検討されているが開いても期待できない。きちんと真相を究明するには証人喚問してうそがつかない場での証言が必須です。真相解明しその上で再発防止の政治資金規正法の抜本的改正が求められる。しかし多数を占める自・公が今の状況では不正がまかり通ってしまう。政権交代で抜本的対策を求めたい。

## 予算案衆院強行採決

政治倫理審査会が紛糾している最中、新年度予算案が衆院予算委員会強行採決、衆院本会議も異例の土曜日に強行開催し採決された。この新年度予算は社会保障費の自然増を1400

億円圧縮し軍事費が7兆9486億円と空前の規模になっただけでなく、後年度負担で分割払いになっている軍事費は新規分として7兆9076億円、23年度以前分5兆8412億円、合計13兆7488億円と急激に増えている。多くは米国からの武器購入であり、F35ステルス戦闘機購入費も含まれている。

戦争準備でなく、社会保障費や災害対策費などに優先して配分すべきではないでしょうか。少子化対策としてこども家庭庁の財源を医療保険に上乘せして徴収するなど姑息なことをせず、軍事費を抑えるだけで捻出できるでしょう。

## クリミア併合10年

ロシアがクリミア半島を併合して今月で10年になる。ウクライナはクリミアへの攻撃を行うなど奪還を諦めて無い動きも見られ、一方ロシアは再度首都キーウに侵攻する可能性もあり、

犠牲者は日々増え続けている。早期の停戦を望む。

## 3・1ビキニデー

70年前の1954年3月1日米国がビキニ環礁で水爆実験を行った。その制限海域外で操業していた1000隻もの漁船が被害を受けた。その死の灰を浴びた第5福竜丸の通信長久保山さんが亡くなった。政府は米国に対する国家賠償請求を放棄し200万ドルの見舞金で政治決着。ほとんどは漁業補償に使われ第5福竜丸船員以外の被害者には補償しなかった。第5福竜丸以外の多くの漁船員の健康診断も隠され、経過観察もされなかつた。今も労災認定と損失補償を求めて裁判が続いている。

(H)



ビキニ環礁の水爆実験